

「道の駅」による地方創生の拠点について

道の駅「グランテラス筑西」のご紹介

茨城県筑西市 土木部 道の駅整備課

1. はじめに

現在、国土交通省によって登録されている道の駅は全国で1,160 駅あり、そのうち茨城県内では14 駅が登録されています。

道の駅の登録数は年々増加傾向にあり、道の駅の整備目的である「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの機能を基本コンセプトとし、この3つの相乗効果から、地元の特産物や観光資源を活かして多くの人々を迎え、地域の雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上に貢献する施設となっています。道の駅は、ドライバーにとっては大変便利な施設であり、より安心して利用できる施設の要求に応じて整備されています。また、近年は「道の駅」の持つ多様化する機能を反映し、道の駅そのものが目的地とした観光も増えています。本稿では、県内に14 駅ある道の駅のうち、従来の道の駅としての機能に、今までにない機能を組み合わせた「ハイブリッドな道の駅」を目指して多様な店舗展開や様々な機能を持たせ、国土交通省と一体型で整備した道の駅「グランテラス筑西」について紹介します。

2. 道の駅「グランテラス筑西」の立地

筑西市は、その名称のとおり、筑波山の西に位置する「筑波山がいちばん美しく見えるまち」であり、美しい田園風景、鬼怒川をはじめとする河川の水辺、里山、平地林など、豊かな自然環境に恵まれた地域です。

この恵まれた自然条件や立地条件を活かし、農業が盛んであり、農業産出額は周辺地域と比較しても高く、市の基幹産業となっています。主な産品は、米、そば、野菜、果物で、梨やこだまスイカ、キュウリなど、全国トップクラスの生産量を誇るものも数多くあります。

道の駅「グランテラス筑西」は、国道50号（下館バイパス）と県道207号が交差する地点の南西の角に立地しています。国道50号沿線には、本道の駅から西に約22km 地点に道の駅「思川」（栃木県小山市）があるものの、ここから東側には道の駅が立地していないことや、下館バイパス区間が平成26年に全線開通したことにより通過交通



【道の駅「グランテラス筑西」全景】

車両が増加していることなどから、整備効果が高い場所として、筑西市で初となる道の駅を令和元年7月に開駅しました。

3. 道の駅「グランテラス筑西」の整備コンセプト及び基本方針

平成27年6月に道の駅「グランテラス筑西」のあり方を検討する「筑西市「道の駅」整備推進協議会」を設置し、平成28年3月に「筑西市「道の駅」基本構想・基本計画」を策定、整備コンセプト及び基本方針を設定しました。

(1) 整備コンセプト

fun！ fan！ fan！ ～みんなが楽しい道の駅～

「市民」も「来訪者」も、「男性」も「女性」も、「子供」も「大人」も、

「消費者」も「生産者」も「運営者」も、みんなが楽しめる

「fun」＝楽しさ、おもしろさが、

「fan」＝周辺地域と広がり、

「fan」＝ファン、応援者が生まれる「場」を目指します。

(2) 基本方針

- ① 市民が育てる道の駅
- ② 市民活動のステージとなる道の駅
- ③ 「筑西の農力」が発揮される道の駅
- ④ 地域内外から人を呼び込む道の駅
- ⑤ 防災について学び、備える道の駅

4. 道の駅「グランテラス筑西」の機能

(1) 休憩機能

- ① 駐車場施設は、誰でも簡単に駐車できるよう配慮し、安全でわかりやすい動線や広めの駐車スペースに配慮しました。
 - ・広大な駐車場を整備しました。(駐車台数361台(大型車43台、小型車318台))
 - ・小型車の駐車マス幅を2.7mと広く整備しました。
- ② トイレ施設は、明るく清潔で、パウダールームや授乳室のあるトイレを整備しました。
- ③ 休憩施設は、来訪者がリラックスして過ごせる空間づくりとなるよう整備しました。
 - ・直径約60mの広々とした芝生広場や、筑波山を望む渡り廊下デッキを整備し、その周りにベンチやテーブル・イスを配置しました。
 - ・コインランドリーやコインシャワー、リクライニングチェアなどを備えたリラクゼーションルームを整備し、長距離ドライバーが車から降りてゆっくり休憩できる場を用意しました。

(2) 情報発信機能

- ① 国が整備した24時間使用できる「トイレ・情報交流施設」で道路情報等を発信します。
- ② 総合案内所では、地域の観光イベント情報のサービス案内を行うコンシェルジュを配置するとと

ともに、雑貨コーナーでは地域の伝統工芸品や特産物を販売しています。

(3) 地域連携機能

① 農産物・物産直売所

全国でも有数の農産物の産地であることから、こだますいか、梨、イチゴなどをはじめとした地元農家が生産した安全、安心、新鮮な野菜や果物、花、米、肉などの農畜産物を取り揃えました。地元ならではの加工品やお土産品も充実しています。



② 飲食施設・体験施設等

広々としたレストラン、フードコートやカフェ、ベーカリー、バーベキューなど様々な飲食店で筑西市のバラエティーに富んだ食材を堪能していただけます。

【広々としたレストラン、フードコート】



【道の駅全国初出店のカフェ】



【ベーカリー】



【地元の食品工場関連のフードショップ】



【野菜収穫体験が楽しめるバーベキュー】



【天気を気にせず過ごせるキッズスペース】



【屋外ステージ】



【ドッグラン】



③ コミュニティー施設（多目的室、調理室）

・地域活動や生涯学習、会議、企業研修など、多様な集まりの場となるよう整備しました。

(4) 防災機能

① 非常用発電機を設置し、停電時に備えています。

② 国土交通省主催により、台風などの影響で河川の氾濫が起きそうな時に、余裕をもって逃げるために事前に考えておく、一人ひとりの生活にあった、オリジナルの避難行動計画（マイ・タイムライン）作りを行う講座を開催しました。



③ 「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」の3つの機能が、災害時に防災機能を果たします。

休憩機能として、災害時は、広大な駐車場を道路や道の駅の利用者等の一時的な避難所として利用できます。情報発信機能につきましては、モニターや掲示板を活用して交通情報・気象情報・緊急医療情報等が発信できます。地域連携機能では、直売所を利用した救援物資の中継・配布などの利用も可能であると考えています。

さらには、近隣における災害復旧活動時の後方支援の拠点としての利用を想定しています。

5. おわりに

このさまざまな機能を持たせた道の駅は、地域産業の活性化や雇用の拡大、交流人口の増加など、地域課題の解決に役立つものと確信しています。

この道の駅を中心に地域の活性化を図るべく、下館駅と道の駅をつなぐ巡回バス、そして下館駅周辺から本道の駅間をレンタル自転車で移動できるコミュニティサイクル事業がスタートしました。また、民間事業者による東京駅までの直通バスの運行も始まり、本道の駅を経由して1日3往復の便が運行されています。さらには、現在、地元農家の方が本道の駅南側の農地を利用してイチゴの収穫体験ができる施設を整備しており、今冬完成予定となっています。

機会がありましたら、ぜひ、道の駅「グランテラス筑西」へお越しください。

